

# 妊婦の生活環境と児の行動発達

室 岡 一 (日本医科大学産婦人科)

妊娠中の生活環境が胎児にどのように影響するか全く分っていない。しかし出生直後の新生児について行動発達を調べてみると、個人差がかなりあることに気付く。この相違がどこから起こったものか、妊婦の生活環境と結びつくものか検討を進めてゆくものである。

## 研究 方 法

妊婦の生活環境について、次の内容について、くわしくきく。妊婦が話し好きか、寡黙の方か、よく歌をうたうか、全く歌わないか、喧嘩好きか、我慢してしまうか、姑との同居、隣人とのつきあいなど不愉快でないか、ストレスを受けるようなことはなかったか、家庭内は静かか、騒音環境下にあるか、音楽をたのしむ方か、全く音楽をきかないか、テレビ、ラジオはいつもつけ放しか、ときどき聞く程度か、妊娠中楽しく過せたか、気が重かったか、赤ちゃんができることに喜びをもって迎えられるか、かなりの不安、否定的考えか、妊娠中の運動の有無、その程度など調査をすゝめてゆく。他方新生児については、出生直後に Brazelton neonatal assesment scaleにより、児の行動発達の程度をみてゆく。とくに alertness についてくわしくみてゆく。以上の母児双方の調査により、母児間にとくに関連の深いものが見出せるか検討をすゝめているが、現在までに一応の傾向がみられたものは、次のようである。

## 調 査 成 績

- ①妊娠後半期から、妊婦が好きな特定の音楽テープを毎日きいていた群の新生児は、対照に比し animate の聴覚、視覚反応がやゝ顕著であった。
- ②妊娠後半期から、1週3回、妊婦水泳を実施した群の新生児は対照に比し、動作が活発であり、夜泣きするものが少く、物音におどろかない傾向がみられた。

## 考 察

家庭生活での不快な事態、けんか、ストレスについては、真実を求めるのが困難なことが多く、この方面でのデータはとり難い傾向にあった。今後はしたがってこの面をとくに重点的に調査をすすめてゆきたい。なお母体側の生活環境の要因には相互に関連の深いものが多い。たとえば妊娠中の運動実施は生活が楽しいものが多く、ストレスを受けることが少ない。したがって各要因の検討には関連の深いものを一括するなど、統計処理に種々の検討を加えてゆく。本調査は児側は出生直後の状態を求めるものであるが、参考のため、生後1月、3月、6月の行動発達も可能な限り求めて、出生直後の状態の解析に役立てたい。

## 昭和 58 年度研究報告

本年度はまず第一の作業として、クラシック音楽、軽音楽12種類の中から妊婦の好きなものを一曲選んでもらい、妊娠8ヶ月頃よりテープを家庭に持ち帰り、毎日聞いてもらった。使用テープのうち数の多いものはG線上のアリア、四季、トロイメライ、ノクターンなどであった。これらの妊婦からの新生児40例と、コントロール群の新生児40例についてBrazeltonを施行した。その結果音楽群の方がやや聴覚、視覚反応がよいような印象が得られた。つぎに1週3回の妊婦水泳を実施した群の新生児は対照に比し動作が活発で、夜泣きするものが少ない傾向がみられた。

また妊婦の家庭生活の内容についてくわしく知るためにアンケート調査を実施し、その項目と結果をコンピューターにインプットする作業を続行中である。

しかし家庭生活での不快なことがら、けんか、ストレスなどについては真実を知ることが難しく、その評価の困難さがうかがえた。